

## 徳島県総合計画審議会「『未知への挑戦』推進部会」会議録

1. 日 時 令和4年5月10日（火）午後2時から午後3時まで
2. 場 所 徳島県万代庁舎10階大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員（12名中8名出席）

金貞均部会長，青木正繁副部会長，植本修子委員，高畑拓弥委員，近森由記子委員，平岡深愛委員，藤岡梨沙委員，森貴浩委員
  - (2) 県  
政策創造部長，各部局政策調査幹 ほか
4. 議 題
  - (1) 新たな総合計画の策定方針について
  - (2) その他

<配布資料>

資料1 新たな総合計画の策定方針
5. 議事録
  - ・議題に先立ち，事務局により資料の確認を実施。

（事務局）

それでは議事に移らせていただきます。ここからは着席にて進めさせていただきます。それでは以後の進行につきましては金部会長にお願いいたします。金部会長よろしくお願ひいたします。

（金部会長）

部会長の金でございます。本日の進行において、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。それでは議事に入る前に昨年12月に行われました、前回の部会以降、森貴浩委員に新しくご就任いただいておりますので、ご紹介させていただきます。短くご挨拶をお願いします。

（森委員）

4月の人事異動において上野前理事長から変わりました、一般財団法人さなごうちの代表をしております。一般財団法人では、ふるさと納税の返礼品をしたり、ふるさと産品を開発したり、またまた移住定住のことをしたりする業務をしております。この活動が今後の県の発展につながるものと思っております。当財団を含め、今後ともご指導ご鞭撻をお願いいたしまして甚だ簡単でございますが、挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(金部会長)

どうぞよろしく申し上げます。

それでは本日の議題，新たな総合計画の策定方針について，まず事務局より資料のご説明をお願いいたします。

・事務局より資料「新たな総合計画の策定方針について」について説明。

(金部会長)

ご説明，どうもありがとうございました。

それではただ今説明していただいた中で新未来セッション NEO については，これまで当セッションにご尽力していただいた青木副会長と近藤明子委員に今年度も運営をお願いしたいと思うのですが，みなさまよろしいでしょうか？

ありがとうございます。それでは青木副会長。よろしく申し上げます。それと本日も欠席の近藤明子委員には事務局からお伝えいただくよう，よろしく申し上げます。なおセッションは三回開催されますので，ほかの委員におかれましてもご都合が合うようでしたら参加についてご検討いただければと思います。

それではご説明いただいた策定方針について，何かご質問がありましたらご発言いただきたいと思っております。意見交換は1時間ほど予定されております。そんなに長い時間ではないですが，どなたからでも結構ですので，ご発言をよろしくをお願いいたします。

平岡委員お願いします。

(平岡委員)

事前に資料でも提出させていただいているかと思うんですけども，先ほど説明していただいた策定方針の2番 策定手法に関するところで，事前に意見というか，提言をさせていただいております。聴取のポイントのところはその2番目ですね。県内の若者に加え，県外在住者子育て世代，若手有識者等を追加拡充ということで，これは本当にあくまで一委員としての意見なんですけれども，その人材確保がやはり難しい点なのかなと思っております。もし可能であれば，今県の方で行っている徳島フューチャーアカデミーさんであるとか，あと私がボランティアとして参加させていただいている県南のひとつむぎというボランティア団体。それからこれも公的な団体ではないんですけども，greenbird 徳島チームさんであるとか，そういった団体さんに今，実際に徳島の課題を自分のこととして考えて活動されている方が本当にたくさんいらっしゃるのでもし若手人材をどこから集めようかっていうことが問題になるようでしたら，そういった団体さんに意見を聞くっていうのが一番自分としてはいいのかなと言う風に考えているので，そういったところも少し声かけの際に候補として考えて頂ければなと思って，事前に意見を提出させていただきました。

以上です。

(金部会長)

はい。そうですね。幅広い方々から意見を聴取するのがいいかと思えますけどね。これに関して何か具体的なご計画とかあるんでしょうか？

(事務局)

失礼いたします。先ほど平岡委員さんの方からですね、新未来セッション NEO の開催にあたっての参加者についてのご意見をいただいたところでございます。当然ながら、積極的な取り組みを行っている団体の皆さま方に、色々のご意見を活発にいただくと言うことが、この NEO、高校生とか大学生も参加する中で、非常に刺激と言うことにもなるかと思っております。具体的なメンバーにつきましては、まだ固まったところはないというところでございます。ご意見頂いた方々につきまして、参加メンバーについての検討材料とさせていただきますしたいと思います。大変ありがとうございました。

(平岡委員)

はい。ありがとうございます。

(金部会長)

これに関連して何かご意見等ございましたら、引き続きお願いします。藤岡委員、お願いします。

(藤岡委員)

藤岡です。よろしく願いいたします。私もちょうどですね。今の項目について、意見や質問等がありましたので、お話をさせていただければと思います。まずですね今のご質問が、今のご回答の中にあつたように、新未来セッション NEO の中に、子育て世代の方が入られたりだとか、あとは県外在住者の方たちが入られるようなイメージなのか、それともその方たちは別として、また新しい集會が行われるようなイメージなのか、どちらでしょうか？

(事務局)

現在考えている新未来セッション NEO は、これまで参加者が高校生や大学生だったんですけれども、そのセッションをやっている会の中に、子育て世代の方々とか、若手有識者の方とか、あるいはまた県外在住者、県外に住まれている方から県内を見たときの目線とといったようなあたりのご意見も同じ場で意見をいただきたいという形で考えているところでございます。ありがとうございます。

(藤岡委員)

はい。ありがとうございます。そうしましたら、きっとその場にいらっしゃる方が、ある程度その意見っていう同じ境遇とか立場にいらっしゃる方たちの意見を取りまとめるような役割をされている方のほうが、きっと望ましいだろうなというふうに思いますし、あとは子育て世代って言うても本当に幅広いと思うんですね。未就学のお子さんをお持ちの方たちの悩みであったり、あとはもう小学校、中学校、高校というふうに青少年の子育てを今されている方たち。その悩みとか状況っていうのはまた違ったものがあるかと思えますので、そういったところも偏りがないようにしていけるといいのかなというふうに思いますし、もし可能なのであれば、オンラインとかで、他にも繋いで意見を伺うであったりだとか、あとはその実際の対話集会に至るまでのステップとして、Google フォームなどで、回答ベースで何か意見を集約するようなことができれば、もう少し幅広い意見が聴けていいのではないかなというふうに感じました、以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。他に、関連してご質問等ございますでしょうか？はい近森委員、お願いします。

(近森委員)

先程のお話に関連するところもあるかなと思って、発言をさせていただくんですが、今回その若者というか、将来を担う若者の参画というところがすごく重要になってくるのかなと思っています。これまでもそういうところは謳われていたかと思うんですけども、この新未来セッション NEO に关しまして、その学生さんだけではなくて、いろいろところで属されている若い方の参画っていうところもあると思うんですが、前にも少しお話ししたかなと思ったりもしたんですけども、総合計画審議会という、その県全体の県政の計画を皆さんで話し合うこの場に高校生だったり、大学生だったり、いろいろ本当に若手世代と言われている方を委員さんとして参画していただくのもいいんじゃないかなというふうに思っています。私自身もこの場に参加させていただいて、自分のそのわかっていることとか、興味関心があることをお話しすることはできるんですけども、やっぱりいろんな方がいらっしゃるんで、特に審議会なんかはすごくいろんなところの専門の方とか携わっている方がいらっしゃるんで、こんな人いるんだとか、こんなことをされているんだとか、こういうところって徳島にあるんだなって自分をすごく教えていただいたっていうのは凄く感じる場所です。毎回参加させていただく時も、こんなふうな意見があるんだなって、自分の本当個人的な学びになっているところもあるんですけども、そういう機会をぜひこの徳島を担っていただく若い方に機会として与えていただくのもいいんじゃないかなというふうに感じました。私の個人的な余談になるんですけど、平岡さ

んに初めてお会いした時って大学院生さんだったんですよね？肩書を見ると保育士さんになってると思って、その彼女の成長を知れて個人的にすごくなんかうれしいなあと思ってすごく始まる前にお話をたくさんさせていただいたんですが、個人に偏ってしまうかもしれませんが、ぜひそういう機会も新たなる総合計画っていうところの中に入れていただくと、未来が明るいかなと思いましたので、発言させていただきました。

(金部会長)

ありがとうございます。もっと多くの方々に関わっていただきたいという考えだと思いますが、どうでしょうか？青木副会長、新未来セッションNEOにずっと関わって、主宰して下さってこれまで感じたこと、それから関わった若者やいろんな観点から意見を述べる方々をオブザーバーとして招待して一緒に話を聞いたりするわけなんですけれども、その中で感じたことについておっしゃっていただければと思います。

(青木委員)

皆さん方のご意見をお聞きするとですね、若者という視点でのこういった参画はですね、非常に大事な視点であると認識しております。その中で新未来セッションNEOにこういったやり方というか、持って行き方ですねそれに対してですね、平岡委員さん、藤岡委員さん、近森委員さん等々のご意見を集約して、その逆に言うと、今まで高校生、大学生を中心として、若者の意見として反映している意見収集が多いじゃないかといったご意見が正直と思うんですよね。で、そうじゃなくて、逆に平岡委員さんや、藤岡委員さんがおっしゃる通りですね、若手の社会人、ここに子育て世代や若手有識者として活動されてるね、ひとつむぎ、僕もよく知ってるんですけども、それで活動されているところから、意見を集約して、それをあげてほしいというような、ご意見のように僕は捉えたんですね。やっぱり良くするためには、逆に言うと学生とその若手社会人だけの、未来セッションみたいなね、いつかはしてもいいかなと個人の意見ですけども思います。学生の意見とまた社会に出た皆さん方の意見とかは、また違うと思うんですよね。私の長い経験でずっと高校生、大学生等の意見を集約をさせていただいたんですけども、その中でやっぱり感じるのほどこに焦点を置いて聴取のポイントを置くかという、行政手法だと思うんですよね、逆に言うとね。ぶっちゃけトークでいきますね。だからそこは、こういう風に変えていくというのは、事務局がどんどんセッションなり、もちろん時間との戦いですね。7月までにしないと、次の審議会に間に合わさないといけない。そうすると一つ一つ招集して、それを反映する、非常にねあれだけ作るのめっちゃめっちゃ大変なんですね。僕も総合計画に長く関わっているとよくわかったんですね。ぱっと言った意見が一つ、すぐ入るかというところじゃなくてね、エビデンス、裏付けが必要であったりデータが必要になったりといったことが大事だということも十分に、僕は理解している中での個人の発言につきましては、対話集会の中に先程事務局が申し上げたとおり、現段階では今の活動されている子育て世

代さんや若者世代の方を入れて、一括で三回、南部、東部、西部と言うふうに分けるようなイメージで持っているのかなというふうに思うんですけども、逆に若手だけで集約して一回しても面白いかなと、なかなか意見集約できんと思うんですけども、逆についこの間、NHK でね、若者の声をシナリオなしでぶっちゃけトークみたいなやってたと思うんですね。そういった風に逆に言うと、若者だけでこうやらすっていうのも、僕は個人的には今の時代、あってもいいと思う。それと、もう一点はどちらでしたかね？IT を使って必要な意見集約を google で先にといいご意見、あれ非常にいいと思うんですね。その場その場で発言だけじゃなくて、事前にそういった世代の方々、今の世代の方でもみな全部、これなんですよね。僕らみたいな、ぎりおっさん世代になってくると、そろそろやばくなってくるとかなと思いつつ、逆に若い世代はもう google であったり、全ての IT を使いますので、やっぱりそういったところで活用する。それこそ県の施策の中である IT、DX とかそちらの方にも持っていけるんじゃないかといった手法で何かひとつ新しいことやってもいいかなとね。これ、事務局サイドに申し上げたいんですけど、僕はもういいんで、上手にやってほしいなあと個人的に思っております。部会長以上でございます。

(金部会長)

そうですね。本当に設定が難しいところはあるんですけどもね。高畑委員お願いします。

(高畑委員)

はい。ありがとうございます。高畑です。僕自身へと県南部の方で教育と産業の活動させて頂いている中で、日頃から、高校生中心にですね県最南端の海部高校の魅力化事業というものを、4年間にわたって取り組んできている中で、一番重要なところとして肌身で感じているのは高校生たち自身、若者自身の視野をまず広げてあげてからじゃないと意見を聴取するにしても極端な話、ここは田舎です、イオンがありません、USJ がありませんみたいな話になってしまうんですけども、もっとその価値観みたいなものっていうのを変えるきっかけってというのは、若いうちから気づくべきだなと思ってまして。これは新未来セッション NEO の場でっていう話ではなく、むしろそのそこに行き着くまでの子供たちを広くそういった視野を広げるっていう活動をするべきだなと思ってます。まさに牟岐でやられているひとつむぎさんとかの活動は、県外に出られたりしている町外の大学生のお兄さんお姉さんたちと、町内の小中学生が触れ合うことで、外の世界を見せてもらえるんですね。そういったような刺激っていうのを、若いうちから機会として提供されるっていうのは何かこう教え込まれるっていうよりもすごく重要な機会だと思ってまして、その上で多様な価値観とか、いろんな人の視線を学んだ上で、こういうセッションに出るっていうようなところから、本当の意味で課題っていうものがこうだと言うものだったり、いいところはこうだと思う、と言うところになってくると思うので、今までの設計だと社会に出て

からじゃないと外が見れないっていうものなので、自分だけ見ても日本人って謙虚だし、徳島県民って本当に謙虚だと思うので何もないっていう話になってしまうんですけども、そうじゃなく、若いうちから接点を持つっていうようなところが重要かなと。その意味で言うと海部高校生もですね。今県外から毎年、十人以上ですね県外生が入学してくるような状況になりまして、12年ぶりに定員をみたすような形になってきてます。で、その中で生徒たちの声を聞くと、県外から来た同世代が宇宙人のようであると、それだけいい意味でですね。刺激を受けて結果として、地域の子も新しい挑戦をしようと思うとか、こういう地域との取り組みというのをやっていきたいっていうような活動が芽生えてきているので何かすごく崇高なプログラムをやるというよりは、そういった早いうちからの視野を広げる施策っていうところが結果として、こういった聴取にあたってのいいアウトプットが若者から出てくるのかなというような意見をもっております、以上です。

(金部会長)

はい。じゃあ植本委員。お願いします。

(植本委員)

株式会社ハレとケデザイン社の植本と申します。宜しくお願いいたします。ちょうど本当にこう始まる直前まで高畑さんとお話させていただいていたんですけども、私たちの方の西のほうでも南は海だとすると西は山なんですけど、私のように外からやってきた人間にとってはすごくやっぱり一番の宝だっていうのが大自然であり、子供もちょうど今11歳ですけど、当時3歳とかだった息子を連れて来ているので、こんなに素晴らしい大自然をなんで使わないんだろうという思いで、大自然に価値を作ることを目的に会社としては活動してるんですけども、私たちの方でもコロナの間止まっていたものの親子がすごく大自然のなかにやってきて、子供たちは自然体験をするっていうシンプルにそこから始まったんですけども、もう今年4年目ぐらいで間抜けてるんですが、3回くらい開催した、私はサウナを事業としてやってるんですが、親はデトックスして子どもはそういった自然体験をするみたいにシンプルな活動を始めたところ、結構東京からの反響がすごく大きくて大自然に飛び込むことがなかったっていう人たちが、この徳島の魅力みたいなものを再発見してくれていると言うことを結構実情としてすごく良い試みだったなと受け止めているんですけども、山の木のエネルギーを使った活動のなかでしているのも、これ、上に行くとき書いてあるカーボンニュートラルみたいなところも、お手伝いになってるんじゃないかなと思うんですけども、本当にこの魅力みたいなものを体感するのって、逆輸入が今すごくいいかなっていうふうに思ってるんですが、どうしても中の人、本当に謙虚で何もないってすごく言うんですけど、外から人が来ることによって、すごく魅力的なわけ？みたいな全然自分達が思ってもいなかったところに魅力があるっていうのを再発見してくれる動きが、少しずつできてくるんじゃないかなっていうふうに思ってるんですが、その

辺も踏まえて、本当にこの新未来セッション NEO のこの高校生、大学生に加えて、県外の人の意見みたいなものとか、声ですとか、そういったもの、動いているという事実に関して、本当に役に立つことがあるかなというふうに思ってます。県外の有識者なんかも、私もつながりもあったりするので、本当に発信になればなというふうに常々思ってます。よろしくをお願いします。

(金部会長)

ありがとうございます。先ほどの高畑委員の話の中にもありましたけれども、やっぱり新しい価値、価値観というもの、それを分かち合う場として、新未来セッション NEO はやはり若者に自分の意見を言う場を与える、それから県政に関わるきっかけを与える、それと様々な人の意見を聞くチャンスが与えられ、そこで視野を広げることにつながるという大変重要な意義を持っていると思います。また先ほどご発言がありましたけれども、今時のオンラインですよね、ネットワークを駆使して、様々な立場にある人たちを招いて場を共有する、そこで出たさまざまな意見を通して学びを深めることができれば、とても価値のある時間になるかと思えます。ただその環境を設定する方の準備が大変だとは思いますが、いいチャンスとなれますようにご準備の方、またよろしくをお願いします。

他にご意見等また頂戴したいと思えますけれどもいかがでしょうか？先ほど説明のありました、この計画策定に関する計画の構成内容と、それから策定手法ですよね、これに関してご意見をいただきたいと思えます。どうぞ。

(平岡委員)

先ほどからの IT をどのように活用するかということが話題に出ているかなと思うんですけども、やはりその今の 10 代 20 代であるとか、そういった世代はどうしても LINE とか Instagram とか Twitter というのが主な情報収集の主題になっているのと、あとは Twitter とか TikTok とかですね。そういった媒体が主で、むしろその一般的なネットニュースになっている徳島新聞の記事であるとか、そういったものが流れて来なかったり、その県のホームページを見たことなかったりする方たちも多いと思うので、やはりその情報を IT で発信するって言う際には、その Google フォームとかであるところから取りに行かないと得られないアンケートになってしまうので、もう少し拡散できる媒体、例えば Twitter であるとか、それこそ Instagram とか、そのいつもはそういうものに関心がない方たちにも届くような手法で届けていただければ、多分そういった方たちの意見こそが、多分、今後必要とされてくるころだと思うので、それこそが本当の若者の実態。徳島県の若者の実態っていう含まれている部分だと思うので、その IT 活用の際にはそういった SNS の導入も考えていただければ、非常により有意義なアプローチになるかなと思えます、以上です。

(金部会長)



ありがとうございます。これから発信の方法、手法というものがとても大事にされていくわけなんです。はい。森委員、今回初めてで、何かご意見とかございましたらどうぞ。

(森委員)

いろいろ皆さんの意見聞いていて、いろいろ感じた事なんですけれどもっと、うちの村でもそうなんですけど、みんな若者っておぼこいっていか地域の魅力を知らないんですよ。ですので、聞いていて思ったんですけど新未来セッション NEO とかで移住者とかにこの地域の魅力を語ってくれるのを、地元の方の高校生たち、大学生たちが聞いた時にどう感じるかっていうのをこのセッションの中で感じていただけたら、非常に良いものになるんじゃないかなと僕は思いました。うちの田舎も都会へ出て行くんですけど、逆に移住者はここに魅力を感じて来るんですよ。この差ってなんだろうってずっと常に考えてるんですけど、これが、高校生とか大学生とか若い感覚で感じてもらえることができたと言う風に感じました。ありがとうございます。

(金部会長)

ありがとうございます。はい、高畑委員。

(高畑委員)

すみません、ありがとうございます。今のお話に付随してでもあるんですけども、まさに地域の子供たちとか、地域にもともといる人たちっていうのが何をきっかけに地域の魅力を発見するかって言った時に今、資本主義の中でこうどんどん動いていくと、過疎地であればあるほど、いろんなネットショッピングに頼るようになって、地域経済自体があまり回らなくなってくると、一方でそのコロナをきっかけに、いわゆるプレミアム商品券みたいなその地域で使う紙の媒体、ほとんどが多分紙媒体でやってたと思うんですけども、あぁいった一種の地域通貨みたいなものを通じて、地域でしか使えない要は amazon では使えないっていう状況を生むことによって、その地域の経済が回るってところが一つの目的ではあったんですけども、一方で飛騨高山の方とかで地域通貨を導入して、そういったプレミアム商品券とかとは別でサルボボコインっていう地域通貨を使っているんですけども、その地域の高校生たちも普通に使ってるんですね。バイトとかは、高校で禁止されてるんで、稼げないと。要は地域の飲食店とかに行く機会がないって話だったんですけども、何かしらの地域活動であったり、それこそその発信とかを手伝うことによって、ポイントが得られるみたいな仕組みがあって、それを通じて地域の商店街に出て行くようになったと人流が変わって行ったってところ。経済的な面だけじゃなくて地域通貨を導入することによって、資本主義の中からいわゆるポスト資本主義みたいな形。ローカルの中で回すような形プラスローカルをそれをきっかけに知るっていうようなところまで発展しているっていうのがあって、徳島県で言ったらまさにエシカルっていう文脈が非

常にたぶんこのカーボンニュートラルにもつながってくるんですけども、そういったところの一種の施策としてっていうのと総合的に、子供たちが地域の価値を知るとかかっていうところに関してそのデジタルの時代だからこそ、子供たちも当たり前のように、地域通貨を、iPhoneの中で使えるって言うような状況だからこそ、そういったものを導入するっていうのが、具体的な施策につながるんじゃないかなっていうのは思っています。おそらくこの長期ビジョンのところの達成に向けてはおそらく県民意見の反映というところはなかなか難しいと思うんですね。高校生にカーボンニュートラルの達成に向けてどう思いますか？って言われても、ほぼわからないと思うんですけど、僕でもわからないんですけども、そこはおそらく大学との共働っていう中で話が出ると思うんですが、その具体的な実現に向けては、結局はその若者であったり1地域住民であったりの経済活動であったりが変わらない限りは実現ができないと思っているので、そこをトータル的にデジタルの力を使って、人の行動原理自体を変えていくっていうような施策がうまく絡めば、本当にこの2050年って言うところの目標達成に向けていいものができるんじゃないかなと思いますし、そこに付随して先ほど申し上げたような地域の子供たちの視野を広げるっていうようなところの目標達成も副次的にできるんじゃないかなと思う所を考えています、以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。非常に重要なご指摘だと思います。他にいかがでしょうか？どんな意見でも良いので、ぜひ、これからの新たな総合計画の策定に向けて、いろんな考えを皆様から頂戴したいと思います。植本委員お願いします。

(植本委員)

1番の計画概要の、2番の計画の構成内容の中で出てくるSDGsという単語について、最近よく気になるんですけども、世界規模で結構自分ごとにしなないきゃいけないみたいに言われてるんですけど、なかなか入ってこないのがSDGsだと思ってるんですけども、各自治体によって取り入れたらすぐ役に立つSDGsと結構他人事のSDGsってあると思うんです。それでSDGs達成に向けたみたいなことだと、徳島県の見据えるSDGsっていう物差しがあってもいいのかなって結構思ったりしたんですけども、例えば飢餓って言われてもそこまで密接ではなかったりとかだけど、海とか山とかっていうことに関しては東京都よりもとても近いところにあたりとか、そういうことがすごくSDGsって私結構こっちくる前8年くらい前から何か一応聞いて、これからこういうの大事になってくるって知ってたんですけども、いよいよ本当に身近なものになっていこうとした時に、結構中身を開けてみるとその内容自体が一長一短というか、なので徳島県オリジナルなものがあったらいいのかなというふうに思っていました。もしくは例えば福祉向けですとか子供向けですとか、そういった本当に自分ごとでできるような視点のSDGsみたいなものの物差しを策定して見るみたいなものもあったらいいかなというふうに思っていますが、私たち民間

がそういうふうに登壇したところで、多分そこで終わってしまうんですけども、県のようなちゃんと日本の中でも47分の1つなわけで、規模的にはそれぐらいの団体が声を上げることによって、何か動きが変わるんじゃないかなというふうに思ったので、今述べさせていただきました、以上です。

(金部会長)

“考えは地球規模で、行動は足元で！”この足元というものが、やっぱりそれぞれの地域の特色・状況に合わせて行動すべき事を具体的に示し、それを実践して行くということにならないといけないと思うんですね。ただ、基本的に、根本的になぜそうすべきかというところ、つまり地球規模で考えるという本質的なところをきちんと理解・共有しながら、具体的なことを決めていく、実践していくということなんですよね。平岡委員お願いします。

(平岡委員)

先ほどの植本委員の発言でありましたSDGsですね、グローバル規模ではアジェンダ2030って言われているんですけども、これ少し私も大学院で研究したので、述べさせていただこうと思ってマイクをとらせていただいたんですが、このSDGsが一番大切にしている理念誰一人取り残さないっていう部分で、一番この今回の2020、30年に向けたSDGsで最も尊重されているのはローカライズするっていう部分なんですよ。それはそのそれまでに20世紀に行なってきた開発であるとか、環境保護の取り組みが、結局その国民とか市民を置き去りにしていたという反省に基づいてできたのが、この新しいSDGsで、まさに植本委員がおっしゃっていたとおりで、その各地の地域の人におろして行くっていうのが、このSDGsの一番実は大事なテーマだと言うことも大学院の研究の中で、勉強したんですけども、やはりそれを鑑みても、それこそ徳島県にとっての、SDGsの具体的な目標、ゴールは何なんだろうっていうのは本当に大事なテーマですし、本当にこういう場で、それこそその若者の意見とか、実際に誰が取り残されているのかって、そういう部分を可視化できる大事な場でもあると思うので、それこそその県民の徳島県オリジナルのそのSDGsを定義するっていうのは一つとても大事なのかなと思って植本委員の意見を拝聴させていただきました、以上です。

(金部会長)

その通りです。ありがとうございます。他にどうでしょうか？近森委員お願いします。

(近森委員)

ありがとうございます。いろいろとお話を聞いてて、取り留めもないことかもしれませんが、お話できたらなと思いました。2060年頃を展開していることで、長期ビジョンと

中期プランというのがあると思うんですけど、今すごくコロナのことでも、みなさんとっても大変なところには来ているかと思うんですが、そろそろ落ち着いてくるのかなと明るいところも見えるかと思うんですけども、やはり2025年問題とかDXとかあと、いろいろ想定されるこれから起こるであろうことってたくさんあると思うんですね。例えばこう南海沖の地震だったりとか、あとはもちろん人口減少のこととか、未知のウイルスだったり、気候変動もそうですよね。SDGsの話聞いてまして、そう世界規模で考えた時のそういう気候変動だったり、それに関連したウイルスだったりとか、先ほど植本委員さんおっしゃった飢餓とか、私たちであんまり関係はないのかなと思うんですけど、やはり長期で考えた時に食糧難って言う言葉もきっと出てくるんだと思うんですね。よく考えれば考えるほど自分自身が不安になってきたりするんですけど、でもそこでやはり総合計画と言うことで謳っていいのか、わからないんですけど、徳島県としてそういうところ、これから起こりうると考えられていることに対して今はこんな計画をしますよっていうのを明確に出すということも一つ、計画策定する中では大事なのかなと思っています。で、そうなった時に徳島県ではこういう課題に対してこんな取り組みをしているんだっていうのがすごく明確になることで、もしかすると移住される方もいらっしゃるかもしれませんが、いろいろ探して行く中で、いろんな各自治体とかが、いろんな取り組みをされていると思うんですけど、その中ですごく参考になることだろうなというふうに思います。いろんなことを考えるときに、やはりまずは課題というか、どういうところに課題があって、どういうことをやらないといけないかっていうのは、すごく何に対してもそうだと思うんですけども、色々計画をこれから作られていく中でも、やはり今、現状どうなのかとか、それに対しての課題がどう何があるのかというものも合わせてもちろん考えられていると思うんですけども、そういうところも着眼していただきながら、計画の策定を進めていただければなというふうに、皆さんお話しを聞きながら思っておりました、以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。徳島ならではのということですかね。そうですね、徳島ならではの成熟社会に向けて、どのようなビジョンができるかということですよ。その中でも新しい価値を生み出しながら、やっていく。それをどのように見せてあげるかという部分ですかね。ありがとうございます。

他にご意見等ございますでしょうか？高畑委員お願いします。

(高畑委員)

すみません。今、委員の方から食糧危機みたいな話も出たので、発言させていただきますが、私、別の法人で水産養殖業を県南部で営んでまして、牡蠣の養殖を海陽町の方でやっております。もともと牡蠣養殖って徳島県でいうと鳴門でやれるかなというところで、

太平洋沖の暑いところでは全く作れないと言う状況であったんですけども、環境変化に応じたデータに基づいた養殖業というものに、いま4年間取り組んできて、今そのシステムを、開発完了して、全国にそれを広げて行くフェーズに入っています。これから多分、水産業は養殖業に転換して行かないとかなり、本当に危機的な状況にあると言うなかと、今円安がものすごい進んでいる中で、今までって水産業はもう外から寄せればいいじゃないかというような話になってたんですけども、この水産大国日本でありながら、今やっこの円安が進むことによって、輸入材がもうどんどん高くなってきていると、燃料も含めてですねって言うような危機感の中で、やはりこの自給ってところの課題が凄く、大きく出てきていると言うような中で我々が、今後この牡蠣養殖がって言うような切り取り方ではなくカーボンニュートラルとかの観点で言った時に、あとSDGsですね、持続可能な社会って言った時にその作る漁業であったりとか一次産業ですねっていうものが環境変化っていうのは、もうほぼ止められないような状況でありながら、そこにこう対応した具体的な施策というのも徳島県として、出していく必要があるなと思ってます。我々も牡蠣養殖っていうのはこういう条件であればできますっていうところをシステムに基づいて全国に展開をしていて、足元県南部でも他地域へどんどん展開をしているんですけども、そういったこのデータに基づいたものでない限り、牡蠣が儲かるらしいって言っても本当に作れるのかが分からない、同じようにじゃあすだちが高級品だから別の地域で、北海道で作ってみようみたいな話になった時に、おそらくそれであれば皆さんたぶん作れないだろうなってのはわかると思うんですけども、その経済性であったり、生産効率みたいな部分を具体的にデータに基づいて一産業を支えていく、海陽町であれば、わかりやすい例で言うと、きゅうりタウンというものがあって、それは、この気候に応じて条件有利な地域だから、ここできゅうりをやるんですと言うような話が分かりやすく出しているの、全国的に人を募集できているんですけども、そういったその産業を作るってところの、一歩手前の部分ですかね。そのデータに基づいた一次産業あとは変化に応じた一次産業の下支えっていうのも持続可能な開発目標を達成するもの、自分たちの自給を上げるってところ。引いてはあとは自分たちでつくるって言うことによって、そのカーボンオフセットの実現って言うところですね。が、トータル的に実現できるんじゃないかなと思ってます。なので、そこらへんですねと県として、特に一次産業っていうもののベースになる材料であったり、食べ物って言うところを作るって言うところに対しての、システム的というものだけじゃないんですけども、データに基づいた下支えみたいなものが掲げられたら、より多くの人の雇用も生むし、担い手も増えていくのかなと思っています、以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。いろんな意見を皆様からいただき、本当にありがとうございます。もうそろそろ時間になってきましたので、これで意見交換を終了したいと思います。

よろしいでしょうか。

本日の部会の審議の経過及び結果については、徳島県総合計画審議会部会設置規程第2条第2項の定めにより、総合計画審議会の山中会長に報告させていただきます。県においては委員の皆様からいただいた貴重なご意見やご提言を踏まえ、新たな総合計画の策定に向けた作業を進めていただきたいと思います。なお、本日の会議の内容について疑義等がございましたら後日でも結構ですので、事務局の総合政策課までご連絡いただけたらと思います。本日、委員の皆様には大変忙しいなかご足労いただき本当にありがとうございました。最後に事務局から何かご連絡等ございますでしょうか？

(事務局)

本日の会議録の公表につきましては、事務局で取りまとめたうえで、金部会長にご確認いただきまして公開したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(金部会長)

以上、事務局からご説明がありました、本日の会議録の取り扱いについては事務局の説明通りさせていただいてよろしいでしょうか？ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。ではこれで本日の議事を終わります。議事の運営にご協力いただき、本当にありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局)

委員の皆様、本日は、ありがとうございました。委員会の閉会にあたりまして、村山政策創造部長より、ご挨拶申し上げます。

(村山部長)

閉会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。本日は金部会長を始め先生方にはお忙しい中、貴重なご意見ありがとうございました。非常に前向きな、また施策に参考となるようなご意見もあったかなと思って受け止めております。そういったさまざまなお意見をしっかり受け止めて、新未来セッションNEO、そしてまた秋には、もう一度推進部会を予定しておりますけれども、そちらに繋げていければと思います。本当に今後とも、ご指導ご鞭撻を頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございます。

(事務局)

以上をもちまして、本日の『『未知への挑戦』推進部会』を閉会させていただきます。皆様、大変ありがとうございました。